

絶賛前売・予約中!!
RYUZANJI COMPANY
流山児★事務所 '91スペシャル

Ryuzanji MACBETH'91

流山児マクベス

'91海外バージョン 作●W・シェイクスピア(小田島雄志・訳より)
RYUZANJI MACBETH GOES TO KOREA
Written by William Shakespeare

構成・演出●流山児祥
Directed by Show Ryuzanji

シェイクスピア劇の新展開——“アジアの地獄の戦場”に
繰りひろげられる“男と女の野望のドラマ”

CAST

- 塩野谷正幸・入江若葉
- 松村冬風
- 外波山文明
- 大風明良・北村魚・悪源太義平
- 樫葉武司・若杉宏二・大谷真一
- 小川エレナ・伊藤弘子・ラビオリ土屋
- ますだいっこう・寒河江智子
- 小山裕起・V・銀太・岡島哲也
- 稲増文・藤田洋・河崎耕士・山地登志夫
- 米山恭子・井沢希旨子・青木砂織
- 流山児祥
- 藤山美児・石井博之・高橋富雄
- 成田みわ子・渡辺あゆみ

STAFF

- 舞台監督 北村雅則 美術 加藤ちか
- 照明 山上悦男・ROMI 音響 市来邦比古
- 振付 北村真実 演出補 上村和彦
- ファイティング・コーディネーター 國井正廣
- 台本構成 高島名子 宣伝美術 吉田光彦
- 制作 ますだいっこう

●Photo by Shigeki Morimoto

名古屋公演

- 日時 1991年8月16日(金) 7時PM開演
- 場所 愛知県 中小企業センター・ホール ☎052(561)4121
(名古屋市中村区椿内町4-31 J.R.各線地下鉄名古屋駅前)
- 料金 前売3000円/当日3500円/中高生割引2500円(アブシュルトスのみで発売)
[全席自由、入場整理番号付きチケット]
- チケット アブシュルトス ☎052(762)0611 / 名古屋舞台芸術協会 ☎052(203)8721
チケットぴあ ☎052(320)9999 / 名演会館 ☎052(931)1701

衝撃の名作「アジアのマクベス」が2年ぶりに帰ってくる！
リニューアルし、よりパワーアップした
エントレス・ロマンが東京、大阪、名古屋
そして韓国ソウル、プサンを燃え上らせる。
シェイクスピア・アクションの決定版！

東京公演 (共催：豊大田区文化振興協会)

- 日時 1991年8月6日(火)・10日(土) 7時PM開演
10日土は2時PM、7時PMの2回公演 ※6日土7時PMの回はプレビュー公演
- 場所 大田区民プラザ大ホール ☎03(3750)1611
(東京都大田区下丸子3-1-3 東急目黒線下丸子駅前)
- 料金 前売3300円/当日3800円(全席指定)
【サクループ割引3000円(5名以上) 中高生割引2500円]
プレビュー(6日7時PMの回)1512000円(前売のみ、当日は割引なし)
- チケット 流山児★事務所 ☎03(5272)1785
大田区民プラザ ☎03(3750)1611
チケットぴあ ☎03(5237)9998-9999 チケットセゾン ☎03(5990)9999
【サクループ割引(中高生割引)は事務所のみ扱います】

大阪公演 (伊丹A・Iホール提携公演)

- 日時 1991年8月13日(火)・14日(水) 7時PM開演
- 場所 伊丹A・I・HALL (アイホール) ☎0727(82)2000
(兵庫県伊丹市伊丹2-4-1 J.R宝塚線伊丹駅前、阪急伊丹線伊丹駅7分)
- 料金 前売3000円/当日3500円/中高生割引2500円
[全席自由、入場整理番号付きチケット]
- チケット チケットぴあ ☎06(363)9999 / AI-HALL ☎0727(82)2000

韓国公演

- 日時 1991年8月24日(土)・26日(月)
- 場所 ソウル教育文化会館
- 日時 1991年8月28日(水)・29日(木)
- 場所 プサン文化会館

後援 ●国際交流基金
日韓文化交流基金
テレビ東京12

そこはどこでもない

架空の〈アジアの戦場〉＝ビエトナム王国、
鉄の三角地帯。

戦いがあり、男たちの野望があった。



塩野谷正幸 マクベス 入江若葉 マクベス夫人 松村冬風 マルカム 外波山文明 魔女



大鷹明良 マクダフ 北村魚 魔女 悪源太義平 魔女 樫葉武司 パンクロー 小川エレナ マクダフ夫人



若杉宏二 ロス 大谷真一 暗殺者 伊藤弘子 マクダフの息子 ますだいっこう ドナルドベン ラビオリ土屋 門番



寒河江智子 魔女 稲増文 アンガス 岡島哲也 シートン 小山裕起 レノックス V・銀太 使節 河崎耕士 メンティース



藤田洋 フリーアンズ 井沢希旨子 幻影 米山恭子 幻影 青木砂織 幻影 山地登志夫 兵士 流山児祥 ダンカン

もっとも異色の、大胆な解釈で貫かれた舞台。(中略)舞台はベトナム戦争を連想させるアジアの戦場に移し替えられて、マクベスが乗っ取る王国も、正規の王国というよりも、映画『地獄の黙示録』に登場したジャングルの中の自称「王国」のイメージに近い。三人の魔女はショッピングバッグをぶらさげて戦場をさまよう女の浮浪者に変容し、マクベスの部下たちは無頼のヤクザのよう。(中略)原作と違って最後に王国の秩序が回復せず、権力争いが永遠につづくことを暗示して幕切れにしたのも、「全共闘世代」のこの演出家らしい趣向だった。

朝日新聞

異彩を放った流山児演出。「アングラ最後の生き残り」を自称する流山児の真骨頂は幕切れに見られる。権力争いが混沌のうちに永久に続くことを暗示して終わる。

産経新聞

塩野谷の力演が快く、流山児演出の真骨頂。

東京中日スポーツ

何よりマクベスの「運命と戦う英雄」という既存のイメージをこわし「自分で自分をわからなくなった人間」(柄谷行人/マクベス論)として掴み、我々の身近に引き据えた感覚が見事だった。

江森盛夫「噂の真相」

ドラマの大団円を飾るべき王国の再建、秩序の復活はここにはなく、殺人機械としての権力交代の歯車ばかりがメカニックに回りつづける。安定した秩序を嫌い、混沌のなかを駆けぬけてきた流山児らしい演出なのである。塩野谷正幸は、屈辱し、一種のアパシーの状態にあるこのマクベスの造形にはとても似合っていた。

扇田昭彦「美術手帖」

塩野谷のマクベスの造形が興味深い。どこにも英雄らしい面影はなく、むしろ滑稽なまでの軽さである。神経質な近代人とも違って、持ちなれない権力を手にした小人の面影が濃厚である。彼は常に白のハンカチを手にして、無意識に手を拭いている。私の記憶違いでなければ、ハンカチの血の汚れは徐々に増して行ったように思える。(中略)苦渋に満ちた「マクベス」ではなく、暴力的な舞台であったが、確かに「マクベス」に潜在する何物かをみせてくれた舞台だと思う。

みなもごろう「テアトロ」

流山児の『マクベス』は言わば、メコン・デルタのマクベス、ヤクザのシマ争いのマクベスである。いま「戦争を知らない世代」にとって、一番身近な戦争は、日本自身が戦って敗れた第二次世界大戦ではなくベトナム戦争なのだ。

松岡和子「シェイクスピアアーナ」

流山児の闘争精神は、乾いたシェイクスピア像を呈示していてユニークだった。(中略)内面を欠落させながらシェイクスピアを演ずるにはどうすればいいのかという複雑な作業を、『流山児マクベス』においては、舞台をベトナム戦争に置きかえることで、難なくクリアしていたのが印象的であった。抒情性を徹底的に排除することに成功したシェイクスピア、これはひとつの収穫である。

鴻英良「スタジオボイス」



■物語 ■かねてから、心の底では王位を望んでいた武将マクベス(塩野谷正幸)は、荒野で出会った魔女たち(外波山文明、北村魚、悪源太義平)の奇怪な予言と、激しく意志的な夫人(入江若葉)の教唆により野心を実行に移していき。国王ダンカン(流山児祥)を自分の城で暗殺し王位を奪ったマクベスは、その王位を失うことへの不安から次々と血に染まった手で罪を重ねていく……。

“どうなるうともかまうものか、どんな荒れ狂う嵐の日も時間はたつのだ。”

■解説 ■「マクベス」はシェイクスピアの四大悲劇の一つに数えられる代表的作品である。近年の世界的な「シェイクスピア・ブーム」においては、各国の劇団によるさまざまな形の「マクベス」が上演されているが、それは、この作品自身が持つ密度の高いストーリー性のためであろう。こうした中で、流山児祥がこの作品に挑んだのはなぜか? それはこの悲劇を〈男の野望のドラマ〉としてアクション・ドラマに再構築できると、ふんだからである。「流山児マクベス」においては演劇的にいくつかの新しい解釈が取り入れられている。特に注目されるのは、主人公マクベスを、「自分で自分がわからなくなった人間」として明確に描いた点である。マクベスには、「運命と戦う英雄」といったイメージはなく、むしろ私たちの日常生活に潜む狂気性が濃厚に漂っている。

また、舞台を、原作の中世スコットランドの戦場から、メコン・デルタの「戦場」に置き換えたことも注目される。映画『地獄の黙示録』のような、ベトナム戦争を連想させるジャングルの戦場を舞台に、男たちの戦いのドラマが展開される。

1988年12月に本多劇場で初演され、1989年9月には新宿シアターアプルで再演された。二度の上演によって、単なる古典作品の枠に止まらない、現代社会の問題を鋭くえぐる作品としての評価を数多く得ている「流山児カンパニー」の「物語る演劇」の「流山児マクベス」。今回の「流山児マクベス91海外バージョン」の東京、大阪、名古屋の三都市そして念願の韓国ソウル、プサンでの公演は、その集大成である。